

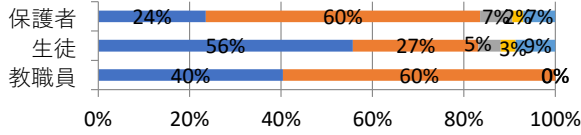
# 令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

### 1 一人一人の児童生徒の尊重

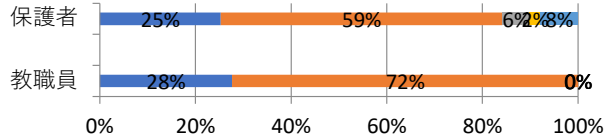
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



教職員は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年同様100%となっている。それに対し、児童の値は昨年度比1%上昇、保護者は2%低下している。今後も一人一人の思いに寄り添った指導・対応を継続していくとともに、保護者への丁寧な説明や学校の取組の周知の充実を図り、連携を深めていきたい。

### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

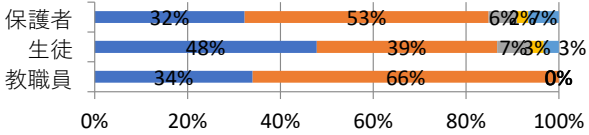


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」がここ4年間、教職員においては100%を維持しているが、保護者は前年度に比べ3%少なくなっている。心かやげ月間においては、各学年や委員会での工夫した取り組みの他、授業参観では公開授業も行い、保護者の協力も得ながら、児童の道徳的実践意欲を高めることができた。日頃の授業の様子についても、さらに積極的に通信等で発信することで、家庭との連携を深め、年間を通して児童の豊かな心の育成に努めていきたい。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

### 3 授業力向上

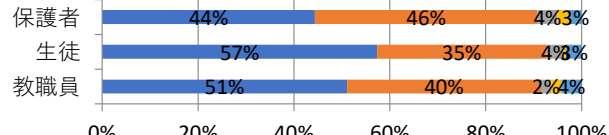
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



R4年度から、教職員の「そう思う」が14%も下がっている。「どちらかといえばそう思う」は16%上がり、「どちらかといえばそう思わない」の2%はなくなった。対して生徒の「そう思う」は4%上がり、「どちらかといふとそう思う」は6%下がったため、一概に「できていない」とは言えない。教職員間でもっと肯定的に授業づくりを行い、お互いの良さを認め合う姿勢で研修を行ってきたい。保護者はこの2点は昨年と変わらず。

### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

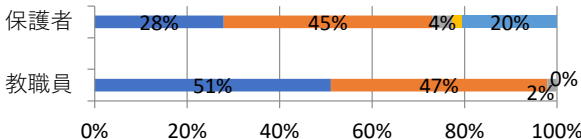


R4年度の学校評価と比較すると、保護者は3%、児童は2%上がっている。これは、授業参観や家庭学習等で活用できている証拠だと言える。一方、教職員は100%から91%に下がっていることから、教職員間で活用状況に差が生じていると考えられる。今後も、カフェ研やTeamsを通して、積極的に具体的な活用法を共有していきたい。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

### 5 学校の支援体制

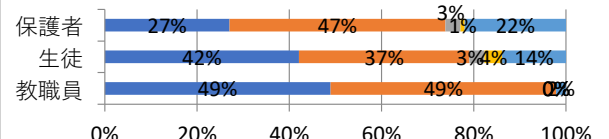
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



学校の支援体制については、保護者の73%、教職員の98%が支援を必要とする子どもの教育に共通理解のもと取り組んでいるという結果であった。R4年度から比べると保護者が3%上がってきている。しかし、保護者の20%は、「わからない」という回答であった。今後も継続して、HPや学級懇談会を活用しながら、特別支援教育の啓発に取り組んでいきたい。

### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



保護者、児童、教職員とも相互理解につながっていると7割以上が答えている。特別支援学級の児童が交流学級で学習したり、特別支援学級担任による啓発授業を行ったり、活動したりする様子を学校HPにアップし知らせたりした結果が表れている。共生社会の実現に向けてそれぞれの特性や個性を尊重していこうという認識を深めていける手立てをとっていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進																																											
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力																																										
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。																																										
<table border="1"> <caption>7 安全と事故防止の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「どちらかといえばそう思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「どちらかといえばそう思わない」</th> <th>「そう思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>26%</td> <td>57%</td> <td>4%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>74%</td> <td>22%</td> <td>1%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」	保護者	26%	57%	4%	11%	0%	生徒	74%	22%	1%	2%	0%	教職員	40%	55%	4%	0%	0%	<table border="1"> <caption>8 家庭や地域との連携協力の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「どちらかといえばそう思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「どちらかといえばそう思わない」</th> <th>「そう思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>26%</td> <td>59%</td> <td>7%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>36%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」	保護者	26%	59%	7%	3%	0%	教職員	36%	60%	0%	0%	0%
対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」																																						
保護者	26%	57%	4%	11%	0%																																						
生徒	74%	22%	1%	2%	0%																																						
教職員	40%	55%	4%	0%	0%																																						
対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」																																						
保護者	26%	59%	7%	3%	0%																																						
教職員	36%	60%	0%	0%	0%																																						
<p>子どもの事故防止などの安全教育について、R4年度と比較すると保護者と教職員の回答において「そう思う」の回答数が減っている。今年度の途中から委員会による安全点検を開始したので、その結果の周知や注意の呼びかけなど児童主体で行っていききたい。家庭や地域との連携については、保護者も教職員も「そう思う」の数値が上がっている。引き続き連携を大切にしていきたい。</p>	<p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、教職員では3%、保護者では10%も上昇した。コロナ禍が終わり学校行事が以前の形に戻ってきたこと共に、HPによる発信が保護者との連携協力向上に効果を上げていると考えられる。今後も積極的な発信を継続していきたい。</p>																																										

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進																																																	
9 学校独自1	10 学校独自2																																																
子どもは、南っ子あいさつ（立ち止まって、おじぎをして、笑顔であいさつ）ができていますか。	子どもは、みんなで力を合わせて（協力して）、いろいろな活動をしていると思いますか。																																																
<table border="1"> <caption>9 学校独自1の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「どちらかといえばそう思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「どちらかといえばそう思わない」</th> <th>「そう思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>22%</td> <td>44%</td> <td>20%</td> <td>9%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>37%</td> <td>39%</td> <td>16%</td> <td>5%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>9%</td> <td>38%</td> <td>45%</td> <td>9%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」	保護者	22%	44%	20%	9%	5%	生徒	37%	39%	16%	5%	2%	教職員	9%	38%	45%	9%	0%	<table border="1"> <caption>10 学校独自2の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「どちらかといえばそう思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「どちらかといえばそう思わない」</th> <th>「そう思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>33%</td> <td>60%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>56%</td> <td>33%</td> <td>6%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>28%</td> <td>68%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」	保護者	33%	60%	2%	0%	4%	生徒	56%	33%	6%	2%	2%	教職員	28%	68%	0%	0%	0%
対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」																																												
保護者	22%	44%	20%	9%	5%																																												
生徒	37%	39%	16%	5%	2%																																												
教職員	9%	38%	45%	9%	0%																																												
対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」																																												
保護者	33%	60%	2%	0%	4%																																												
生徒	56%	33%	6%	2%	2%																																												
教職員	28%	68%	0%	0%	0%																																												
<p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者62%、児童76%で、昨年度と大きく変わらない結果となっている。一方教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は昨年度の62%から大きく下がり47%となっている。教職員の間のあいさつに対する認識に差があることが考えられる。児童のあいさつに対するがんばりを奨励し、教職員同士であいさつの状況を確認し合う場を設けていきたい。</p>	<p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者93%・教職員96%とどちらも高く、昨年度よりも高い結果になっている。今後も学校での活動の様子を発信するとともに、子ども同士をつなぐ取り組みを続けていきたい。また、児童は89%と高い割合であるものの、昨年度と比較して変化は見られなかった。学級・学年はもとより、異学年においても、誰とでも協力し合う良さを実感できる活動の工夫を行ってきたい。</p>																																																

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進																									
11 学校独自3																									
子どもは、自分ができることを、一つずつ増やしていくよう頑張っていると思いますか。																									
<table border="1"> <caption>11 学校独自3の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「どちらかといえばそう思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「どちらかといえばそう思わない」</th> <th>「そう思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>38%</td> <td>55%</td> <td>5%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>50%</td> <td>38%</td> <td>8%</td> <td>1%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>26%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」	保護者	38%	55%	5%	2%	0%	生徒	50%	38%	8%	1%	4%	教職員	26%	70%	0%	0%	0%	
対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「どちらでもない」	「どちらかといえばそう思わない」	「そう思わない」																				
保護者	38%	55%	5%	2%	0%																				
生徒	50%	38%	8%	1%	4%																				
教職員	26%	70%	0%	0%	0%																				
<p>「そう思う」の回答について、児童が6%増加している反面、保護者・教職員は2～10%減少している。まだコロナ禍で行事等が少なく、学年や学級全体で一つの目標に向かって努力する場が少なかったことも一要因と考えられる。3学期は「自分ができること」を児童と共有し、学習や生活において自分の目標を持ち、一つずつできることを増やしていくよう粘り強く努力する場、その良さや達成感を感じられる場の設定を行ってきたい。</p>																									

## 来年度の具体的な取組について

○いのちを大切にす心の教育の充実については、家庭・地域との連携を密にしながら、全ての教育活動で取組を進め、児童が安心して学べる学校づくりを推進していく。また、いじめや不登校についても、これまで同様に未然防止と早期発見に全力を注ぎ、きめ細やかな対応に務めていくと共に、児童が相談しやすい体制・環境づくりを推進していく。

○確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進については、タブレットを中心としたICTの効果的活用や、めあて・対話・振り返りを大切にした授業改善への理解が進んでいる。今後も、分かる授業、児童が主体的・協働的に学び合い高め合う授業づくりに向けて全職員で取り組んでいく。

○教員が子どもと向き合うための体制の整備については、児童・保護者ともに大幅な向上が見られた。今後も一人一人を大切に共生社会の実現に向けて、授業・行事等を中心に取組の充実を図る。また、HP等を通じた積極的な発信に務めていく。

○学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進については、保護者・地位との連携が不可欠である。今後も、現在の各取組の改善・充実を図っていくと共に、HPや安心・安全メール等を活用した積極的な発信により、理解と協力を得られるよう努めていく。

## 学校関係者評価

○日頃の授業では、児童・職員ともに生き生きと学習に参加している様子が見えた。

○学校HP「南っ子の様子」「各学年の部屋」で学校の様子が地域に発信されていることは、地域に開かれた学校であり、大変いいことである。

○不登校の児童への支援が大切である。「学校とつながっている」という安心感を持たせなければならない。

○放課後や休日の公園の使い方は、地域の大人が範を示していく必要がある。

○ヤングケアラーの存在を学校でも把握し、行政・福祉とつなげていく必要がある。

○「南っ子のくらし」見直しプロジェクトの取組は素晴らしい。主体的に自分たちのくらしを自分たちの手でよりよくしていこうという行動が、自治体全体にも広がることを期待している。